

～図書館だより～

R7年 10月号

小早川先生のお薦め本

『そして誰もいなくなった』 アガサ・クリスティ著

英国初版コリンズ・クライム・クラブ/1939年(日本初版は早川書房/1955年)

皆さん、読書は好きですか？ 私は結構読書好きで、とりわけミステリーが大好きです。そんな私から皆さんにお勧めしたいのは“ミステリーの女王”アガサ・クリスティの代表作『そして誰もいなくなった』です。彼女は、何気ない会話や小物に手がかりを忍ばせ、最後に静かに回収していきます。派手な追跡はないのに、ページをめくる指先が少し冷たくなる、そんな緊張が続きます。また、途中で登場人物の追加や後出しの証拠がないため、読者も一緒に推理しやすく没入感の高い作品が多いのが彼女の作品の特徴です。ミステリー作品の醍醐味でもある“犯人あて”がしやすい作品が多いのでミステリー初心者でも読みやすいと思います。

ただし『そして誰もいなくなった』は、その中でもかなり異質です。普通の推理作品では名探偵が表れて事件を解決して話を完結させていきます。某作品でも“体は子供頭脳は大人”君が必ず犯人を見つけてくれますよね。本作にはそんな探偵の役が登場しません。話の道筋を立ててくれる存在がおらず、完結まで秩序が曖昧なまま進んでいきます。結果、相互の信頼関係が揺らぎ、崩壊していきます。読者は“犯人あて”と同時に、信頼が崩れていく過程そのものを体感させられます。我々は社会で当たり前に「秩序」と「信頼」を築いていますが、それらが崩れてしまった環境の中で登場人物はどのような行動をするのか、どうしてそのような行動をとったのか。また、自分だったらどのような行動をとっただろうか。ぜひそのようなことを空想しながら読んでみてください。

最後に、本作のあらすじを紹介します。

ある日、海に囲まれた小さな島に見ず知らずの10人が招かれる。夜更け、無機質な声が「あなたたちは罪を犯した」と告げたその瞬間から事態は動き始める。外部との連絡は絶たれ、壁にかかった不気味な童謡だけが規則正しく時を刻む島で、歌詞の通りに一人、また一人と...
犯人は外にはいない... ということは...



本校図書館にあるのは

『そして誰もいなくなった』 ・ 『そして誰もいなくなった（コミック版）』 早川書房

あああ

新着図書のおすすめ本

『本が読めない 33 歳が国語の教科書を読む』 かまど&みくのしん

『本を読んだことのない 32 歳がはじめて本を読む』の続編。

『山月記』を読んで「一文字目から読めない」と悲鳴！ それから 1 年半ぶりに挫折した経験から学びなおし。不思議な読書体験をお楽しみに！

本を読んだことがない人におすすめ。

新刊コミック！

マンガ大賞 2025 年

大賞『ありす、宇宙までも 1～4』

3 位『ふつうの軽音部 1～7』

マンガ大賞 2024 年 5 位

『チ。－地球の運動について－ 全 8 巻』

その他

『税金で買った本 16』

『とんでもスキルで異世界放浪メシ 11』